

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月22日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892100066		
法人名	医療法人 博仁会		
事業所名	小規模多機能ホームひたちなか	ユニット名	—
所在地	〒312-0003 茨城県ひたちなか市足崎1474-7		
自己評価作成日	平成24年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892100066-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2012_021_kani=true&amp;JigyosyoCd=0892100066-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=021</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月7日	評価確定日	平成25年5月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模登録者23名（12月28日現在）のうち独居世帯または老夫婦世帯件数が半数を超えている。このため訪問に力を入れており、特に掃除と買い物の代行が多い。 また、パーキンソン症候群の利用者も多く、理学療法士と連携しながら独自のパーキンソン体操の実施や家族を呼んでのパーキンソン勉強会を実施している。 また、住民参画の事業所運営として地元自治会に賛助会員として加入し交流を図っている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の周辺には工業団地や住宅、学校、広い畑があり、事業所の広い敷地の一角には利用者がリハビリテーションを兼ねて散歩ができる遊歩道を設けているほか、東屋を設置して段差が異なる階段を2ヶ所つくり、利用者の歩行練習や休憩に活用している。 敷地の地主の協力により干し芋を利用者と職員で作ったり、地域のイベントに招待されるなどで地域に溶け込み、地域の人々との交流が盛んな事業所である。 管理者を中心に職員間の連携を図り、利用者毎の情報を共有するとともに、利用者が安心して過ごせるよう協力体制を築いている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模入り口付近に掲示し、共有している。	併設する同一法人の3事業所と合同の全体会議や事業所のミーティングで本部理念と事業所理念を全職員で確認しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するまでには至っていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会の賛助会員として活動している	利用者と職員は地区の運動会や周辺3地区合同の運動会、地域の祭りに参加している。 手話ダンスのボランティアが月1回来訪しているほか、シルバーリハビリ体操を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を実施		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・地主・民生委員・家族・地域包括支援センター・高齢福祉課・法人職員が参加し、意見の交換と実際に現場でおきている事例を報告している	運営推進会議は家族等や市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、地主、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の行事予定を報告したり、利用者の年齢や要介護度、訪問サービスの利用件数などを報告しているほか、転倒などの事故報告やヒヤリハットの統計を報告している。 委員から「事業所で干し芋を作り、地区の祭りで販売してはどうか」との意見を受け、利用者と職員で干し芋を作って販売するなど、出た意見等を運営に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる		市が主催する虐待防止講習会に参加するほか、要介護認定の更新申請手続きなどで市を訪問した際に、市担当者に運営状況や空き情報を報告し、協力関係を築くよう取り組んでいる。 夫婦で登録している認知症の利用者が安心して暮らせるよう、日中は自宅、夜間は事業所に宿泊することを市担当者に相談するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	I S O年間教育計画にのせ、全職員対象の勉強会を実施	身体拘束廃止マニュアルを作成するとともに職員研修を月1回実施している。 玄関は日中は施錠せず、利用者は自由に事業所の敷地内の遊歩道を散歩したり、東屋で休憩している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に日常生活自立支援事業を活用している利用者があり、社協職員と施設職員のコミュニケーションを図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の実施	毎年3月と9月に併設している談話スペースで食事をしながら家族会を開催しており、利用者や家族等、管理者、介護支援専門員、職員のリーダーで話し合い、利用者や家族等から出た意見や要望を運営に反映させている。 家族等から出た職員の運転に関する意見を受け、職員会議で検討して急停車や急発進をしないなどの運転6ヶ条をつくり、朝礼時に全職員で唱和している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度のミーティング及び定期的な職員面談の実施	月1回ミーティングを開催し、職員リーダーと職員でケアに関することから何気ない意見について話し合い、出た意見等を申し送りノートに記載するとともに議事録を作成し、運営に反映させている。 以前は利用者の荷物の取り違えがあったが、職員から出たチェックリスト活用の提案を採用したところ、取り違いがなくなるなどの効果を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	準職員から正職員登用の実施		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画をたてチェックを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	未実施		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者によるモニタリングの実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		職員は長期宿泊している利用者の希望にそって自宅に行ったり、馴染みの店で買い物ができるように同行しているほか、元漁師だった利用者を海に連れて行くなど、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	実施できている	職員はアセスメントや日々の支援の中で把握した利用者一人ひとりの思いや希望を申し送りノートに記入し、全職員で共有している。 思いや希望を伝えることが困難な利用者の場合は、介護支援専門員が家族等から話を聴いて記録するとともに、全職員に伝えて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過記録に記入		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リハビリ評価表の活用		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当別にし、セラピスト・計画作成担当者・担当職員によるカンファレンスの実施	介護計画は利用者や家族等の希望を取り入れ、介護支援専門員が担当職員や職員のリーダーからの情報を基に、長期計画は6ヶ月毎、短期計画は3ヶ月毎に作成するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを実施している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに記入し、小規模ミーティング内で情報の共有化をはかる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施できている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要があれば主治医あてに手紙を書き指示を仰いでいる	かかりつけ医への受診は家族等が付き添っている。 職員は受診結果を家族等から聞き、薬の情報と共に個人記録簿や申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実施できている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に赴きコミュニケーションを図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		事業所は看取りを行っていないため、食事を摂食できなくなったり、医師の診断により重度化とみなされた場合は、家族等と相談して同一法人の介護老人保健施設への入所などを話し合うこととしているが、契約時に重度化や終末期に至った場合の事業所の対応方針について説明したり、同意を得るまでには至っていない。	看取りを行わないことを契約書や重要事項説明書に明記するとともに、契約時に利用者や家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間教育計画をたてチェックを行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在避難訓練未実施のため、平成25年1月に実施する	年2回避難訓練を実施しており、内1回は消防署立会いのもと利用者や地域住民、併設する通所介護事業所職員の参加を得て夜間想定での避難訓練を行っている。 避難訓練計画を作成するとともにマニュアルに基づいた避難訓練を行い、終了後には反省会を行っているが、役割分担表を作成するまでには至っていない。 併設する通所介護施設が備蓄品を管理しているが、事業所の分の数量を把握するまでには至っていない。	避難訓練を実施するにあたり職員の役割分担表を作成し、各職員が与えられた役割を果たせたかどうかを確認することを期待する。 備蓄品の品名や数量、賞味期限を記載した一覧表を作成するとともに、定期的に在庫数や賞味期限の点検を行い、事業所独自に備蓄品の管理をすることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できていない職員に対しては個別に面談を実施し、接遇向上に努めている	利用者や家族等に「個人情報の取り扱いについてのお知らせ」を配布するとともに、管理者がプライバシーマークシステムの実施指導教育の研修を実施しているが、マニュアルを作成するまでには至っていない。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管している。	管理者や職員で利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシー確保に関するマニュアルを作成し、定期的に研修を実施することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	実施できている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施できている	利用者毎の個人記録簿に嫌いな食べ物を記載し、全職員で共有している。 利用者はできる範囲で職員と一緒に味噌汁を作ったり、配膳の準備やテーブル拭きなどを行っている。 節分には恵方巻きを食べるなど、行事食を楽しんでいるほか、月1回程度の外食支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や看護師の評価		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できている		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	セラピストの協力を仰ぎ体操を実施している	職員は24時間シートで利用者の排泄を管理し、タイミングを見計らってトイレ誘導をしているほか、尿失禁予防体操を取り入れて失禁の予防を図るなど、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。 同性の職員が排泄の支援をしたり、トイレ誘導する場合は周囲に気付かれないよう声かけに配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	実施できている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	実施できている	利用者が週6日利用した場合は3日の入浴支援をしたり、2日利用の場合は毎回入浴支援をしている。 入浴を拒否した場合は時間をおいて声をかけるなど、タイミングを見計らいながら入浴ができるよう支援をしている。 車いすを使用している利用者の家族から出た「安全に入浴させたい」との要望を受け、車いす専用の浴用椅子を用意するなど、安全に入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業療法士と連携しサービスの充実を図っている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		職員は長期宿泊の利用者から出た「自宅に帰りたい」との希望にそって利用者の自宅に一緒に行ったり、利用者一人ひとりの希望にそって買い物などに出かけられるよう支援している。 年間の外出計画を立て、桜や菖蒲など季節毎の花見や地区で行われる毎年恒例のふれあい祭りなどに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施できている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できている	食堂に丸いテーブルを置き、利用者は食後も職員や他の利用者と和やかに談話している。 トイレには立ち上がり便利な手すりを設置し、利用者の安全に配慮している。 リハビリロードと名付けた廊下の棚に季節の鉢植えを置くほか、利用者の歩行練習にも役立つ手すりを設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施できている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できている	居室にはベッドやカーテン、照明器具、整理筆筒、洗面所が備え付けられている。 利用者は使い慣れたiPadやテレビ、本、ラジオ、化粧品などを自由に持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施できている		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能ホームひたちなか

作成日 平成24年12月28日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念はあるが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念がない	事業所独自の理念を作成する	職員からアンケートをとり作成する	1か月
2	33	事業では、看取りをしていないが、契約時に同意をえる手段がない	契約書や重要事項説明書に看取りを行わないことを明記する	法人内の他事業所と連携し書式を統一する	3か月
3	35	避難訓練を行ってはいるが、役割分担表を作成していない。備蓄品の数量を把握していない	役割分担表の作成および備蓄品の数量の把握	役割分担表の作成および備蓄品の数量の把握	1か月
4	36	利用者のプライバシー確保に関するマニュアルがない	マニュアルの作成および定期的な研修の実施	マニュアルの作成および研修の実施	1か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。